秋田県五城目町

みんなの町議会

１年生初めての運動会

五城目小学校

目 次

- ６月定例会の概要 ……………………… 2
- 被災地派遣手記（２名） …………… 3
- 一般質問（４名） ……………… 4～7
- 常任委員会の焦点 ……………… 8～9
- 議会改革調査会・陳情 …………… 10
- あれなんとなったべが …………… 11
- いちびをたずねて・がんばってます
  編集後記 ……………………………… 12

No.107

2011年７月１日

6月 定例会

災害に強い町づくりに 活発な議論

議会の概要

６月定例会は６月６日から９日までの４日間の日程で開かれた。
一般質問は４人が登壇し防災対策など町政の諸課題について活発な議論を展開した。

提出案件は平成23年度一般会計補正予算案、町税条例の一部を改正する条例制定案、専決処分の承認など15件。

渡邉町長は行政報告で『馬場目小学校の統合について平成19年度から関係者と協議を行ってきたが、合意に至らず４年を経過した。児童数の減少、教育環境や学校経営、教職員の適正配置に支障をきたしている。教育委員会では馬場目地区町内会、ＰＴＡ、評議員から意見集約した結果、「子どもの学習環境を最優先に、馬場目小学校は平成24年４月に、五城目小学校に統合すべきである。」と意見書をまとめた。一方、ＰＴＡからは１年先送りしてほしいなどの要望書が提出されており、意見集約に努め早期に統合の時期を決定したい』と述べた。

一般質問、各常任委員会審査を行い、最終日は委員長報告の後、議案11件を全会一致で可決、承認した。報告４件を報告済みとし、陳情２件を継続審査として閉会した。

専決処分が７件提出され、被災地支援など緊急性があるとはいえ臨時会の開催など工夫をしたらどうかと苦言を呈した。

町の防災対策の見直しが必要ではないか。防災無線の設置、避難場所の確保、避難所の耐震性、消防職員数が少ないことから被災地に消防援助隊を派遣できないなど、職員の増員を含め消防の体制強化などを指摘した。

補正予算は２千４４８万円の追加。主なものは震災被災地への職員派遣費１千万円。五城目朝市の歴史を記録したＤＶＤの制作委託費５２５万円など。累計50億７千８４８万円。

町民から寄せられた義援金は４９０万円となっており日赤秋田県支部、県共同募金会を通して被災地に届けられた。

（伊藤　正春）

大震災と向きあって

東日本大震災から100日が過ぎ、被災地ではガレキの撤去や仮設住宅の入居が始まっているが、今なお8万人が避難所暮らしである。

主要産業の農業・漁業が壊滅的な被害を受け、原発事故の収束も見えない。復興の道筋は、生活再建はどうなるのか…。

議会からは荒川議長が大槌町へ支援物資を届けに、建設課原田課長補佐は山田町に避難所支援に派遣され、被災地の状況をレポートした。

無残な変わりように唖然

議長　荒川　正己

4月7日、町長と共に大槌町を訪れ、大震災時に旅行中であった、わが町の町民への支援に対する感謝の意を表すとともに、お見舞いを述べ、義援金・救援物資を届けた。

大槌町は、面積は本町とほぼ同じで人口は1万6千人。漁業で栄えた町である。

未曾有の大津波で死者・行方不明者1千600人以上、家屋の損壊も3千700戸を超える壊滅的な被害を被った。

大槌には、過去数回訪れているが、あまりに無残な変わりように唖然とした。360度見渡す限りガレキの山、木造家屋は原型もない程粉々に。コンクリート・鉄骨の建物は残っているが、3階付近まで破壊の跡。町の中心地には押し寄せたガレキにガソリンスタンドの火災が燃え移り、2日間に渡って燃え広がったという。まるで戦争映画の空襲跡のシーンをみているようであった。

役場庁舎が壊滅

●町長・幹部職員も犠牲に

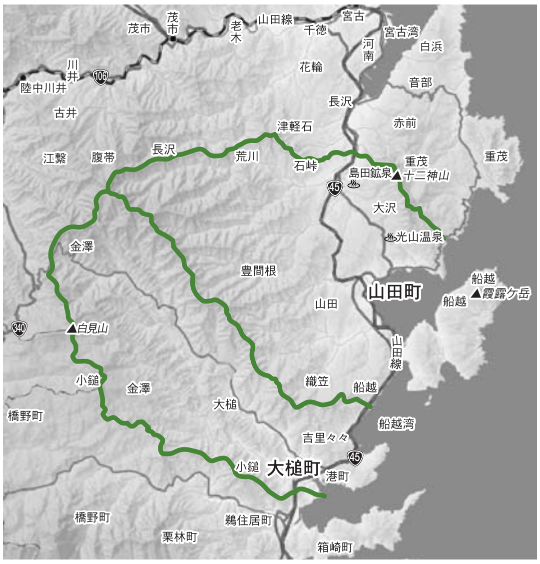
町役場も職員110名中30名以上、町長、課長クラス全員が犠牲となった。奇跡的に助かった役職者は、副町長と教育長のみ。残った職員は不休不眠の状況下で頑張ってはいるが中枢の役場庁舎が壊滅し情報の集約にも難儀している状況であった。

被災地の1日も早い復旧と復興を祈念するものである。

岩手県山田町災害派遣

建設課課長補佐　原田　功輝

4月9日午前8時30分、秋田県庁前は岩手県や宮城県への派遣職員であふれていた。私と消防署の伊藤大将（だいすけ）消防士は県職員と合せ、12人で岩手県山田町へ出発した。秋田自動車道から遠野市、そして釜石市へと向かい、そろそろ海かなっと思った瞬間、目の前に見えたものは瓦礫の山。テレビの映像では見ていたものの、凄まじい光景を目の当たりにし、胸が痛くなる思い。車は海沿いを北上し大槌町へ。坂道を下り見えたものは、津波被害を受けた「浪板観光ホテル」であり、何かこみ上げてくるものがあった。



山田町は大槌町のとなり

いよいよ山田町へ入り、我々二人は折笠コミュニティセンターで下車し直ちに事務引き継ぎ、と言っても我々が来た車で帰るのでバタバタと終わり、呆然と車を見送った。気が付くと岩手県の職員が一人いることが分かり安心し、業務についた。

折笠コミセンの避難住民は約110人で5部屋に避難していた。我々の仕事は、朝9時頃に自衛隊からの食糧配布の受け入れ、午後2時頃に付近被災住民への支援物資の受け入れ及び配付（約350人分）その他館内の掃除や物資の仕分け、医師や保健師、弁護士など訪問者の対応など様々である。食事は、朝はコッペパンにジュース、昼はカップメン、夕食は、ごはんにおかず一品とみそ汁。この繰り返しである。我々は3泊4日だから我慢できたが、被災者はいつ終わるとも分からない精神状態で生活をしていると思う。

避難所の様子

最後の夜、山田町役場から「山田邦子さんとラサール石井さんがコミセンに向かった」と一報があり、ザワザワしていると到着し、カン高い声で「どうも～山田邦子です」と建物の中に入ってきて「大丈夫ですか?元気ですか?」、と声を掛け、テレビで見るそのものであった。涙を流し握手をする人、一緒に記念撮影をする人、コミセンが感動の渦で覆われたひと時だった。

帰路に就く当日、事務引き継ぎを終え、車に乗る時「秋田の五城目さんありがとう」と声をかけ握手してくれた皆さん、こちらこそ「ありがとうございました。」

山田町の皆さんの思いをかみしめて帰路についた。

あなたにかわって聞きました

一般質問

東日本大震災で、わが町の消防本部だけが災害援助隊に加入しておらず出動していない。

町長 職員数・車両台数の関係で派遣の目途が立っておらず、未登録である。

石川　交三
（日本共産党）

石川 大震災に秋田県内の各消防本部から緊急災害援助隊が出動したが、五城目消防だけが援助隊に加入しておらず、出動していない。

町長 職員数・車両台数の関係で援助隊には未登録だ。県内13消防本部で未登録は当町のみである。

石川 実に残念なことだ。消防庁が示している「消防力の整備指針」と当町の現状、充足率と他消防本部との比較はどうなっているか。

町長 職員数は26名で充足率は52%。県内平均は70・2%。男鹿地区消防が91・1%、湖東地区消防が89%である。

真剣に訓練に励む署員

石川 国の整備指針では「火災発生から6分半以内で消化活動実施」とある。現状でも不可能な地域が多く存在する。広域化で改善できるのか。

町長 広域化で充足率達成は難しいが、連携による災害鎮圧の迅速化、高度な現場力効果などで消防力・防災力が引き上がるよう進めたい。

石川 湖東病院の救急受け入れ中止で秋田市への搬送が増えている。救急車の増車が必要ではないか。

町長 100%が秋田市など遠方への搬送だ。状況により湖東消防へ応援要請して対応している。増車は有効だが、人員不足により、具体的検討に行き届かない。

石川 消防関係者は「大震災に救援に行けないのは消防人として本当にくやしい」と述べている。消防団の協力も得て大槌町に支援できないか。被災地は泥上げや掃除など人手が必要だ。町民も「何か役に立ちたい」と思っている。職員も含めて支援体制をとれないか。

町長 アクションを起こす前に相手方の都合を聞くのが大事で、状況も日々変わっている。あらゆる角度から検討したい。

子どもの医療費無料化の拡大を

石川 全国的に中学校卒業までの医療費の無料化が進んでいる。安心してお医者さんにかかれる町づくりを進めるのは子育て支援の重要な柱だ。

町長 現在は未就学児、ひとり親家庭で18歳までの子ども、身障者の方に福祉医療費受給者証を交付して保険診療での自己負担部分を全額助成している。所得制限により未交付の子どもは26人であり、所得制限を撤廃し無料化を拡大する方向で検討したい。

住宅リフォームの助成制度をさらに充実させよう！

石川 子育て支援や介護保険の認定者への支援、下水道の普及推進などの観点で、さらに推進する仕組みをつくろう。耐震改修工事にも助成しよう。

町長 昨年度は事業費で2億6千万円を超える実績だ。高齢者住宅整備資金などの各種制度と併用して利用してほしい。耐震工事は国の制度を利用して事業を計画している。

リフォーム住宅（高崎）

3月11日発生　東日本大震災

あなたにかわって聞きました

一般質問

3月11日を教訓にして町の災害に対する町長の所信を問う!!

町長　町民の生命と財産を守ることが最大の責務と考える。

伊藤　英紀
（森盛会）

伊藤　**町の災害時の対策と準備、町民への啓蒙施策を問う。**

町長　対策は「防災マニュアル」と「洪水ハザードマップ」を全世帯へ配布した。

今後の対策は、防災行政無線の整備に努める。

伊藤　**防災無線の具体策はあるのか。**

課長　23年度に防災無線の調査設計業務委託。基地局は役場、中継局は町内各所に設置し屋外拡声器にデーター送信し、スピーカーで放送する。

町長　啓蒙については、防災訓練の実施、各小学校、幼稚園、保育園など避難訓練をし、「広報ごじょうめ」、「町のホームページ」、「チラシ」などを活用する。

伊藤　**大槌町への今後の町の対応について問う。**

町長　大槌町の具体的要望あればできる限りの支援をしたい。町としての積極的な支援は、ひとまず終了したものと考える。

通学路の整備と安全を問う

伊藤　**森山地区四町内では、地域によって、スクールバスを利用している児童と、利用できない児童がおり、細越坂を通行する危険度を考えると森山地区は同じであり、保護者からは、不公平感を持たれている。スクールバスの利用基準はあるのか。**

町長　スクールバス運行に関して、国・県・町の明確な基準はなく、不公平感を持たれることになったことは、大変申し訳なく感ずる。

教育委員会は、児童生徒の通学は、安全・安心を最優先に考え、早急に運行基準を策定し、その運用を図って行く。

伊藤　**冬期間の歩道の除雪は町当局でできないのか。**

町長　歩道の除雪は原則、各道路管理者が行うことになっているが、県と協議を進めて、除雪できるよう図る。

伊藤　**神明社前の狭いカーブの道路の改修工事はできないのか。**

町長　狭隘（きょうあい）で見通し悪く危険であることは十分認識している。県に道路の危険性を説明し、早期に改良工事に着手するよう強く要望して行く。

危険と背中合せの通学路（神明社付近）

朝市ふれあい館の利活用策は

伊藤　**施設を有効活用しないと宝の持ち腐れになる。町の振興に繋げて行く対策を問う。**

町長　観光客の休憩所、地域の集会所、各種団体の会合、地場産業木工品などの定期展示、地元商品の展示紹介。地元小・中・高校の児童生徒の作品展示、各種サークル・団体の講習会、地場食材の料理講習会、各種イベントなどの利活用を図る。屋外では朝市開催時にフリーマーケットを開催する。又、観光物産案内所として活用する。

馬場目小学校の統合はいつか

伊藤　**児童の学習環境を最優先し、平成24年4月に五城目小学校に統合すべきとの意見書が提出されている。町長は強力な指導力を発揮して、児童のために一日も早く統合すべきと考えるが。**

町長　保護者、地域住民、学校が納得の上、統合したい。本定例会終了後、早急に関係者と懇談会を開催し、統合の時期を決定したい。

町長、教育委員会 見解不一致か？
馬場目小学校統合問題

あなたにかわって聞きました
一般質問

町長 今しばらく、意見集約に努める

舘岡　隆
（新世紀クラブ）

舘岡 児童数の減少により、教育環境や学校経営、教職員の適正配置などに多大な支障をきたしている。『子どもの学習環境を最優先に考え、馬場目小学校は平成24年4月に五城目小学校に統合すべきである』との教育委員会からの意見書が町に提出されている。町長は、「意見書は重く受けとめるが、今しばらく意見集約に努め、統合の時期をきめる」と言うが、4年経過しても決定できない。統合の原点は何か。町長は指導力を発揮せよ。

町長 保護者が平成25年4月を希望している。早急に関係者の意見を伺い決定する。

舘岡 教育委員会の意見書の24年4月の統合案の決定のタイムリミットは。

教育長 7月中旬に臨時議会を開催し決定したい。

統合問題でゆれる馬場目小学校

専決処分は議会軽視である！

舘岡 当局は3月議会以降、6月定例会まで、議案を招集しないで震災対応を専決処分で、予算執行してきた。今、国も県も通年議会の流れの中で、町は「招集する暇がない程、緊急を要する事件」が現実にあるのか。真に緊急の時は、自治法101条第5号の規定で告示期間を置かないで前日告示して議会開催もできる。議会と当局は相互に牽制し合う、「対立の原理」が基本である。当局と近すぎて、批判も監視も適正な政策判断もできないのでは、議会の存在理由もなくなる。専決処分は議決した事と同じ法律効果を発生するので議会は慎重な運用を見守らなければならない。本町は被災地でないので冷静に議会開催しなければならない。今回の対応は議会軽視である。

町長 大震災に係る予算を、適時に執行できるように専決処分した。

『農地・水・環境保全向上対策』について

舘岡 平成19年度から本年度まで5か年の事業であるが、対象地域の15町内が実施している。1年間で、本町の財政負担割合1／4の574万円である。事業実施できない地域は、あまりにも不公平である。『全町的に有効な事業』であるので、本年度で終了させないで、「枠の拡大」を要望すべきである。

町長 次期対策の要望に努める。今後多数の地区が取り組めるよう指導体制を整備する。

帝釈寺町内

健康診査について

舘岡 昨年の3月議会の質問に対して町長は『健康づくり推進員』の負担軽減につとめると答えたが、本年度の対応も何一つ改善されていない。県の『がん検診推進協議会』との連携はどうなるのか。

町長 推進員には心より感謝する。「県民こぞってがん検診」の県民運動として展開し、受診PRに努める。

あなたにかわって聞きました

一般質問

循環型社会形成にむけた自然エネルギーへの取り組み『期待高まる小水力発電』

町長 馬場目川上流部が『小水力発電』のモデルケースに

舘岡　幸雄
（公明党）

舘岡 東日本大震災の発生により、これまでの既成概念が根本的に見直されようとしている。

震災発生後の物流の停滞は、産業拠点が太平洋側に集中していたことを如実に物語っている。「集中から分散へ」との視点にたち、今こそ日本海側へ産業拠点を分散させるべきだ。

小水力発電は、太陽光発電や風力発電などに比べ、発電量が天候に左右されにくく稼動率が高く安定性に優れていることが大きな特長で自然の力を半永久的に利用できる再生可能エネルギーである。発電に伴う二酸化炭素（CO_2）排出が極めて少なく、建設時の環境負荷が小さい。太陽光発電に比べ、建設に必要な面積が小さい。短期間での建設が可能などの利点も備えている。エネルギーの地産地消をめざし取り組む考えはないか。

町長 資源エネルギーを活用した循環型社会形成への取り組みは、今後重要な施策となる。

自然エネルギーへの転換を図ることにより、温暖化対策、新産業の創造、環境意識の向上、災害時のエネルギー調達にも貢献できる。

当町のもつ森林資源、河川、農業用水路などは、利用可能な資源と考える。

県が実施した小水力発電のモデルケースに、馬場目川上流部が抽出され調査していることもあり、小水力発電について更に具体的な検討を重ねていく。

小水力発電が期待される馬場目川上流部

安心、安全のまちづくりへ『備蓄態勢の見直しを』

町長 防災行政無線へ今年度着手

舘岡 今回の震災では物流拠点が被災し、流通がしばらくまひした。これまで「流通備蓄」の形を取ってきたがその脆弱さが浮き彫りになり、地域ごとに備蓄拠点を設ける必要性が明らかになった。各地域に設置されている公園に防災公園としての機能を持たせてはどうか。通報体制（手段）の整備、避難経路の明確化にどう取り組むか。

防火対策の切り札である、警報器の普及、「被災者支援システム」の導入、運用についてどのように考えるか。

町長 現在、避難所24ヵ所、避難公園17ヵ所を災害時の避難場所に指定している。今後は、災害時に備えた高い防災機能を持つ施設の整備や備蓄品の充実に努める。

防災行政無線の整備は、今年度、基本設計に着手する。

住宅用警報器の普及は、昨年12月時点で48・7％と推計され、継続して普及啓発を図る。

こんなことが審議されました

総務常任委員会

委員会の焦点

消防庁舎建設へ始動
25年度建設へ向け基本設計

老朽化が著しい消防庁舎は23年度に基本設計、24年度は実施設計に入り、25年度建設に着手する。

消防本部内では消防庁舎検討会議で建設に向けて協議を重ねてきたが、16名の委員による「消防庁舎建設協議会」を立ち上げ、3回の協議を経て場所の選定などを協議する。

同時に基本設計（調査設計委託料）に１００万円を予算計上した。

老朽化が進む消防庁舎

東日本被災地支援

緊急を要することから専決処分としたもので、3月16日専決処分では、見舞金として町民1人当り２００円で２１９万円、支援物資はブルーシートと飲料水（2ℓ入り５０0本、５００㎖入り６００箱）を被災地へ輸送した。合計で５３８万円。

4月5日の専決処分は1千万円で、野菜類や物資、職員派遣や衛星電話などと、観光協会などの被災地に対する炊き出しボランティアに対する経費の2／3を補助。

大川保育園に職員派遣

23年度から法人経営となった大川保育園で職員募集をしたが、公募期間が短く、応募者がいなかった。町職員2名を1年間社会福祉法人五城目保育園に派遣する。（小林　正志）

こんなことが審議されました

教育民生常任委員会

委員会の焦点

出産育児金が39万円に

少子高齢化の中、出産や育児について、社会全体で支援していこうとして、これまで35万円だった出産育児金を暫定的に平成22年10月から39万円に引き上げてきたものが、今回の改正により、平成23年4月1日から正式に実施される。

住民生活に光をそそぐ事業がスタート

高齢者や障害者の活動をサポートするための拠点整備と超音波骨密度測定装置を準備しようとするもの。

本事業の予算編成段階において、社会福祉協議会のトータルケアサポート委員会が開催され、その協議を受けて予算配分と事業が決定したことに疑義が出され、町長、副町長の出席を求め審査した。

政策としての事業決定のプロセス、他施設との公平性の確保、補助金申請書の不備、財産の帰属などへの意見が出された。

本事業は、継続や2次配分の可能性が十分あり、公平性

こんなことが審議されました

産業建設常任委員会

委員会の焦点

農業者戸別所得補償制度に改正

戸別所得補償制度は今年度から畑作物の交付金を加えた「農業者戸別所得補償制度」に改正したことに伴い、これまでの「水田農業推進協議会」から「農業再生協議会」に移行した。

「水田農業推進協議会」は生産調整の推進と水田を活用した転作作物の産地化を目指して活動してきたが、政策転換によりこれまでの役割に加えて農地の集積、耕作放棄地対策、担い手の育成など機能強化して「農業再生協議会」を立ち上げた。

委員からは構成する組織、今後の取り組みなどの質疑があり当局からは町、議会、JA、NOSAI、農業委員会、土地改良区、農業法人、集落営農、認定農業者など20名の構成で、農業振興と農業の再生を図る目的で設立したことから今後の展開に期待したいと答弁があった。

予算458万は「農業再生協議会」に移行したことによる経常的経費である。

秋田追分全国大会の「幟旗」を新調

秋田追分全国大会は今年度で22回を迎え7月10日開催される。

鳥井森鈴の民謡を後世に伝えようと始まった秋田追分は独特な節回しが特徴で、県内の民謡の中でも難しい曲とされる。

後継者不足も指摘されているが、昨年から五城目小学校民謡クラブは「年少の部」で出場し、本番に向けて郷土の民謡を歌い継ごうと練習を重ねている。成長が期待される。

「幟旗」は傷みが激しいことから新たに予算20万円で、100本を新調して大会を盛り上げる。

（伊藤　正春）

が確保できること。備品として購入する超音波骨密度測定装置は携帯型で、検診の外、各種イベント開催時においても活用できることなどを確認した。

拠点整備対象事業は、小川口地域伝統工芸伝承事業。小倉地区トータルケア推進事業、西野地区地域活性化事業。上樋口地区福祉で地域づくり事業となっている。

馬場目小学校を五城目小学校に統合へ

築11年で五城目小へ統合される予定の馬場目小

生徒、児童にとって最良の教育環境は何か―。馬場目小学校の五城目小学校への統合の時期を巡り、平成24年4月の統合をめざすとした教育委員会と、平成25年4月まで先送りしてほしいとするPTAとで、平行線をたどっている。

実務を担当する教育委員会は、大勢の仲間の中で切磋琢磨してこそ成果につながると主張。1年間の延長には何のメリットもないという。委員会は、町長の決断を見守るとした。

（舘岡　幸雄）

大震災をふりかえる

迷惑かけだナー!

ツアー旅行で岩手県大槌町の浪板観光ホテルに滞在し、観劇中に東日本大震災に遭いながらも、奇跡的に生還した猿田利美さん、チヨノさんご夫妻（上樋口字切通）を訪問しました。

ホテルでお世話になった田中節子さん（中村出身・左から二人目）と猿田夫妻。右は町長と議長。

大震災から3ヵ月が過ぎました。今の気持ちは?

利美「よく無事で帰ってこれたものだとしみじみ思っている。帰りのバスの出発時間が遅れればどうなっていたか分からない。運にも恵まれた。」

地震当日の様子は?

利美「津波の経験が無かった。自然の恐ろしさを感じた。」

チヨノ「観劇中で良かった。その日の朝日の色が今まで見たことのないような色だった。」

利美「地震前に海からイワシの群れが真っ黒になって岸にきていた。何かなければいいが、と地元の人が言っていた。」

大槌町に「恩返し」ということで募金活動をされましたがいかがでしたか?

利美「寒い中、知ってる人達がいっぱい来てくれた。有難かった。」

大槌町はまだ大変な状況で復興までは長い時間が掛かりそうです。この後なにか考えている事はありますか?

利美「6月に皆で集まって、なにができるか相談したい。」

町民の皆さんに伝えたいことは?

利美「とにかく迷惑と心配かけてしまった。」

チヨノ「町民の全部の人に迷惑かけた。」

家に帰ってからご家族とどう過ごされましたか?

利美「盛岡でやっと電話が通じたが相手が誰だか分からず、だえだ?と言ったら、息子の声わがらネガ!と言われて自分の息子だと分かった。後から家族で大笑いした。」

チヨノ「誰一人ケガもなく皆が無事でなによりだった。添乗員の新井さんは大した人だ。」

若葉会館での二晩、お二人ともほとんど寝なかったといいます。おにぎり一つとお茶が「本当にうまかった!」と、お世話になった方々への感謝の言葉が尽きませんでした。

震災の激しさを物語る

五城目町議会

改革等活性化調査会の動き

全国の地方議会で「議会基本条例」の制定や、議会報告会などへの取り組みが進んでいる。五城目町議会も議会内に任意で活性化調査会を設置し、様々な議論を展開して、活性化に向けた努力を重ねている。

●調査会の目的●

一、「議会活動が見えにくい」と言われる中で、町民に向かってどのように対応するか。

二、議会基本条例策定を視野に入れた話し合いをする。

三、一問一答方式の導入について検討する。

四、議会全般の活性化について話し合いをする。

五、幹事会を毎月一回開催すること。

一般質問の一問一答については会議規則を改正し、すでに実施している。テレビ放送されている国会の予算委員会の様子に近い形になっている。

議会報告会を開催

率浦大学の学生・大学院生を対象に8月下旬を目途に開催の予定である。

これまで調査会として、また議会全体でも各地の先進例を視察してきたが、議会の様子をリアルタイムで伝えるシステムづくりが進んでおり、今後の課題である。

改選期を来年3月に控え、定数のあり方についても議論を進めている。

請願 陳情

陳情

継続

辺野古への新基地建設、米軍訓練の全国への移転拡充を約束した「日米合意」の撤回を政府に求める意見書について

秋田県平和委員会
理事長　風間　幸蔵

継続

米軍への「思いやり予算」廃止の意見書採択を求める陳情

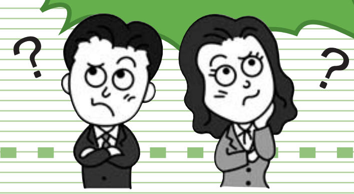
安保破棄諸要求貫徹秋田県実行委員会
事務局長　中田　博

東日本大震災により、国の動向が定まらない中にあり、両陳情とも「継続」とした。

（石川交三）

シリーズ ついせき 70

あれ なんとなったべが！



平成22年６月定例会一般質問より

消防広域化と消防署の改築はいつか。

問 消防広域化について。

答 平成19年5月に「男鹿市・潟上市・南秋田郡消防広域化協議会」を組織し、会議を重ねてきた。平成24年4月を広域化の目標とし、協議を進めている。

現在 継続的に会議を開催し、協議事項ごとに協議を重ねている。

問 老朽化が著しく、早期の改築を。

答 広域化の運営計画が定められた上で着手した場合、一般単独事業債を受けることができる。広域化が決定次第、庁舎の規模・事業費などの調整・検討を指示し、具体化していく。

現在 町の防災拠点としての新消防庁舎建設に向けて「五城目町消防庁舎建設協議会」を新たに立ち上げ協議を進める。

水漏れが激しい消防庁舎

住宅リフォーム助成の経済波及効果をどう見るか。

問 件数、総工事費、県と町の補助金額と総額は。

答 6月1日現在で41件、工事予定額は7千568万円、町の交付金額は281万円、県は565万円の予定である。

現在 平成22年度実績は、県補助金1千925万7千円、町補助金958万2千円で、133件の工事を実施し2億6千132万1千円の工事が生まれた。今年度は5月31日現在で29件の申請があり工事予定額が6千009万2千円である。

（佐藤　重信）

多くの経済効果があったリフォーム

いちびをたずねて

金野千恵子さん（馬場目平ノ下）

◆いつ頃から出店したのですか。

金野　平成18年から来ています。売る人達が高齢になってきているので少しでも若いうちに豊富な山菜を「いちび」に出したかった。

◆きっかけは何ですか。

金野　山と山菜採りが好きで、採った山菜を安く売りたかったのです。

◆売りに出している物は、全部自分で採ったものですか。

金野　春、夏は山菜。秋はきのこ、栗など。冬は餅や漬け物を販売しています。

◆楽しかったことは何ですか。

金野　「いちび」へ来て買手と知り合いになり、いろいろと語り合えたこと。何よりも売手と仲間になって「同志」の気分になり、充実した思いになれることです。

◆辛かったことはないですか。

金野　全くないです。周りの人に支えられて、みんな良い人達で恵まれています。

◆「いちび」の活性化のためにどうすれば良いと思いますか。

金野　買って下さる方が喜んでくださるような「良い品物」を用意すること、また、返品されるようなときは、丁寧な対応を心掛ける必要があると思います。

（聞き手：大石フサ）

がんばってます

ごじょうめ眼科クリニック

千田優美子 さん（岡本１区）

私は今年の3月にごじょうめ眼科に就職し、現在は受付業務を担当しています。

2月までは学生でしたので職場での研修が始まったばかりの頃は、社会人としての生活に慣れるのは大変でした。初めは先輩達の仕事風景の見学をしていましたが、手際よく仕事をこなす姿からは緊張感や責任感が感じられ、自分にもできるだろうかと不安に思いました。

病院の仕事は、受付、検査、診察、会計など沢山の部門が連携して成り立っています。小さなミスがやがて大きなミスに繋がる可能性があり、決して気の抜けない仕事です。

実際現場に立ってみると、言葉遣いひとつをとってみても、最初はどう表現してよいのか戸惑い、伝えたい事がうまく伝わらない場合もあり、落ち込んだりもしました。そんな新人の私に「頑張ってね。」と励ましの言葉をかけて下さったり、笑顔で挨拶して下さったりと、地元の人たちの優しさと人を思いやる気持ちの大切さを日々感じる事ができ、地元である五城目町に就職できて良かったなあと実感しています。

今はまだ患者様や先輩に支えられて学んでいる途中ですが、先輩達に早く追いつき1日も早く支える側の人間として地域の皆様に貢献できるよう頑張っていきたいです。

（取材：伊藤英紀）

編集後記

東日本大震災。全貌が明らかになるにつれ、その甚大な被害の大きさに只々、唖然とする。家族や家を失った方々には、心からお悔やみとお見舞い申し上げます。

今は、各地からの義援金やボランティアなどの援助の手が差し伸べられ、被災者の前向きな姿勢と努力で復旧、復興へ向けて大きく前進しようとしている。

福島県では、原発が地震と津波で全電源が喪失し、冷却機能せず水素爆発が起きた。放射性物質を広範囲に飛散させ、最悪の事態へと進んでしまった。人間が作ったものを制御出来ないとはなんということか、まさしく人災である。住民は古里を捨て避難している。一日も早い収束と古里に帰れる日を願うものである。

ふり返って我古里は、山と田園の広がる静かな町である。「ふる里の山に向かひて言ふことなし　ふる里の山はありがたきかな」つくづく、古里に感謝するばかりである。

佐藤　重信　記

■発行　五城目町議会　■編集　議会広報編集委員会　■〒018−1792 秋田県南秋田郡五城目町西磯ノ目1丁目1−1 TEL 018−852−5411 FAX 852−5402　■印刷　㈱八郎潟印刷